

2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	鈴木 慎一郎
論文執筆者名	森 野々花
論文の題 (テーマ)	舞台芸術ファンの応援について—— 宝塚歌劇と 2.5次元ミュージカルを事例に
簡単な内容 (概要)	舞台芸術をめぐるファン活動には、ジャンルによってさまざまなふるまい方や約束事がある。こうしたファン活動を「応援の文化」と捉えたとすれば、この文化はどのように個々のファンに営まれているのだろうか。さらに、ファンでいることの快樂や苦しみとは何か。これらの問いをめぐり、宝塚歌劇のファン、そして（まだ新しいジャンルゆえ研究の少ない）2.5次元ミュージカルのファンに特にフォーカスして調査し考察を展開したのが、本論文である。
推薦の理由	<p>参与観察やインタビュー、SNS のリサーチなどの手法をつうじ、女性ファンの間にみられる金銭的貢献の重視（“注ぎ込んだ額が対象への愛の証”）、ルッキズム（“女性は見た目が大事”）、エイジズム（“女性は若さが大事”）といった問題にも切り込んでいる。しかしそれらをファン活動の「闇」として一刀両断に断罪するのではなく、ファンたちの声に丹念に耳を傾けることで、彼女たちがなぜお金や見た目や若さに価値を置くのかということと、そしてそこにある快樂と苦しみがないまぜになった感覚とを、描き出すところまで成功している。</p> <p>執筆者は自身が舞台芸術ファンであり、学業の傍らで劇場係員のアルバイトを長らく務め、そして舞台芸術関連のコンテンツ企業に就職が内定している。趣味が卒論へと結実した好例である。</p>